

これからの図書館がめざすもの

－ 石狩市民図書館ビジョン－

石狩市民図書館

第1章 はじめに

第2章 構成

第3章 石狩市民図書館がめざすもの ～市民の幸せのために～

1. 子どもの学びを支援する
2. 資料提供や情報発信を通じて生涯学習を支援する
3. 市民の誰もが利用できるような環境を整備する
4. サービスを支える基盤を整備する
5. 利用者の期待に応える蔵書・情報源を構築する

第4章 石狩市民図書館が今後5年間に重点的に取り組む施策

1. 子どもの学びを支援する
2. 資料提供や情報発信を通じて生涯学習を支援する
3. 市民の誰もが利用できるような環境を整備する
4. サービスを支える基盤を整備する
5. 利用者の期待に応える蔵書・情報源を構築する

これからの図書館がめざすもの
—石狩市民図書館ビジョン—

2020 年度策定

第1章 はじめに

策定の趣旨

石狩市民図書館（以下「市民図書館」という。）は、「石狩市図書館基本計画」に基いて平成12年に建設、開設以来20年が経過しました。

市民図書館は、生涯学習施設としての役割はもとより、図書館の中に街をつくるコンセプトの下、多くの人が集い、憩う場として、市民生活に密着した施設として活用されてきました。

一方、少子化・超高齢化の急激な進展など、本市をとりまく環境は大きく変化しており、市民図書館も、さらに時代の変化に呼応した事業展開を図ることが求められています。

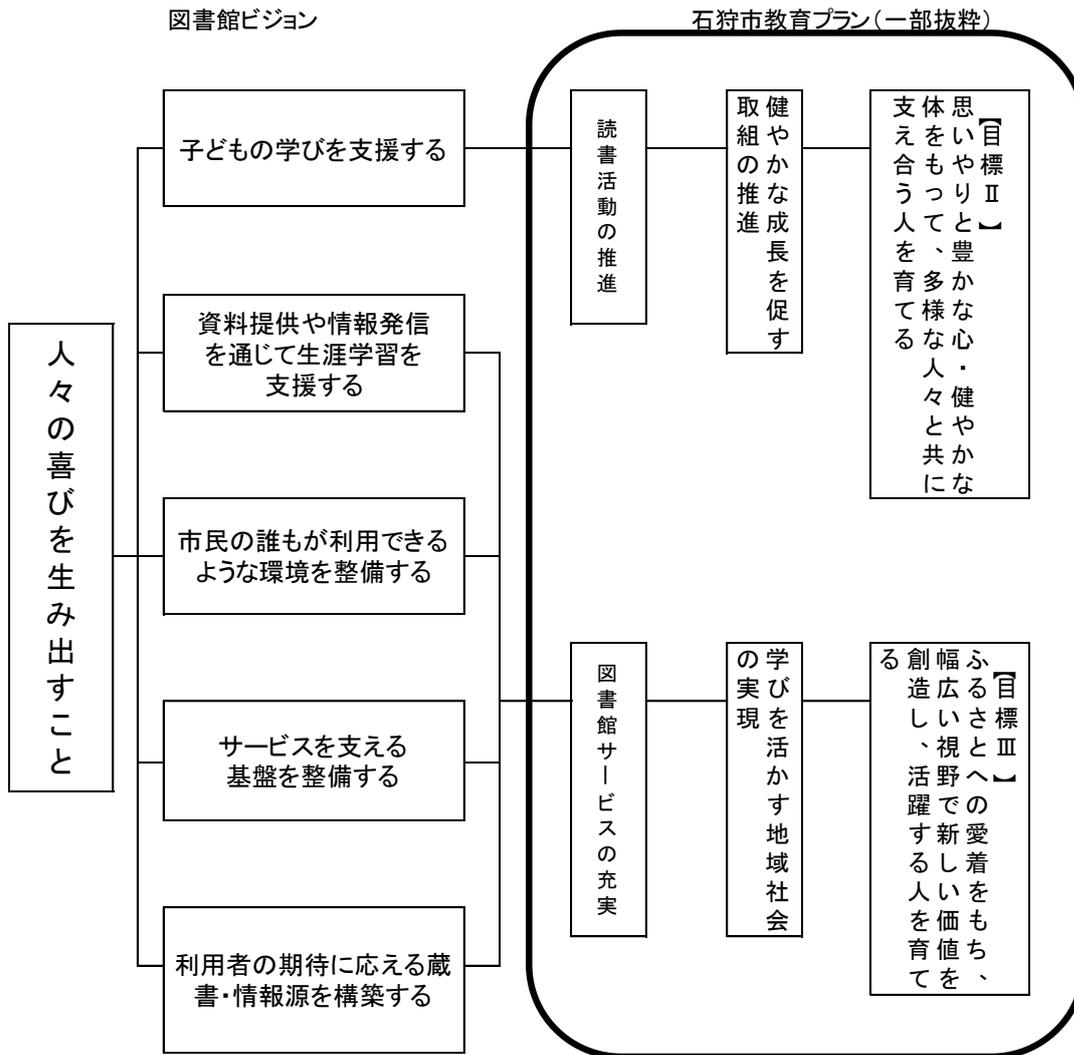
このような背景の下で、これまでの図書館運営の成果と課題を元に、これからの図書館運営の方向性を明確にし、よりよい社会づくりに向けて市民とともに成長する図書館となることを目的として「これからの図書館がめざすもの—石狩市民図書館ビジョン—」（以下「ビジョン」という。）を策定します。

対象とする期間

ビジョンは、石狩市教育委員会が策定する教育に関する方向性を定めた「石狩市教育プラン」（令和2年策定予定）との整合を図るため、石狩市教育プランの計画期間である令和2年から5ヵ年を想定しています。

第2章 構成

ビジョンの構成は、以下のとおりです。



第3章 石狩市民図書館がめざすもの

市民の幸せのために

市民の暮らしにとって何よりも大切なもの、図書館。

地域に図書館をとの多くの市民の声によって、平成12年6月に本館と三つの分館でオープンした市民図書館は、平成17年に厚田村、浜益村と合併し、それぞれの分館を設置し対象エリアを広げました。図書館ボランティアは、読み聞かせ、修理や創作、イベント支援など様々なジャンルで、多くの市民による活発な活動が行われています。また、学校図書館では、これまでの小学校に加え平成30年度から中学校への学校司書派遣も開始し、図書館機能の充実を図っています。

これまで図書館は、本や図書館を大切に思ってくださる多くの市民、図書館協議会委員、図書館ボランティア、市民活動団体や読書家によって支えられて来ました。運営にあたってはたいへん温かく見守っていただく一方、具体的で厳しい意見をいただきながら改善にも努めてきました。

情報通信技術の急激な進展や人生100年時代など社会環境やライフサイクルが急激に変化し、先行きの見えない現代において、これまで以上に市民が身近に感じられる図書館である必要があります。また、地域の課題が複雑化高度化しており、行政だけではその解決に至らない現実、さらには、知識基盤社会が一層進むことを考えると、よりよい社会づくりには市民一人一人がいまままでの慣習や経験にとらわれず、新たな仕組みを作り出すことも必要です。

図書館はこれからも、市民の図書館として魅力的な蔵書構築や様々な情報の提供など、自らの学びの支援に取り組みながら、体験活動や様々な場面での交流を通じ、地域をもっと暮らしやすくするために、市民のみなさんと一緒に考え、共に成長できる図書館でありたいと考えています。

1. 子どもの学びを支援する

(1) 子どもが本に親しむための機会の提供に努める

読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、生きる力を身に付けていく上で、欠くことのできないものです。市民図書館は、家庭、地域、学校図書館など様々な場所で子どもが本に親しむことができるよう、各種の事業を展開するとともに、情報提供に努めます。

(2) 学校図書館活動の充実を支援する

学校は、子どもが一日の大半を過ごす場であり、学校図書館は、児童・生徒にとってもっとも身近な図書館です。市民図書館は、学校図書館と連携しながら蔵書の充実・体制整備を図り、子どもがより多くの本に触れ、また、図書館の活用方法を身に付けることができるよう取り組みます。

2. 資料提供や情報発信を通じて生涯学習を支援する

(1) 資料を提供するための機能を高める

利用者は、多種多様な資料を求めて図書館を訪れます。市民図書館は、調べもの相談用データベースの活用や友好図書館、他の図書館との協力関係等を通じて様々なニーズに基づいた資料が提供できるよう努めます。

(2) 情報発信を積極的に行う

本には、多くの知識や情報がふんだんに載っていますが、文化財をはじめとする様々な文物や古人の知恵と結びつけることで、さらに豊かな知的刺激を与えてくれます。市民図書館は、収集した資料や活動状況などの情報発信に努めます。

(3) 交流や体験を通じ生涯学習を支援する

人生 100 年時代といわれる今日において、生涯にわたる学びはさけて通ることはできません。市民図書館は、資料提供はもとより、利用者同士の交流、体験活動、現代的課題等に関する学習会の開催など市民の生涯学習を支援します。

3. 市民の誰もが利用できるような環境を整備する

(1) 来館するのが困難な方へのサービスの充実を図る

市民図書館は、ハード・ソフトの両面においてバリアフリーであることなどから、多くの方に利用いただいています。一方、図書館に足を運ばなくとも、図書館サービスを利用可能としていくことも重要な課題であり、来館が困難な方々に向けて、資料の宅配サービスや図書館以外でも本の返却が可能となるサービスポイントを設置するなど、誰もが利用できるようサービスの充実に努めます。

(2) 分館でのサービスの充実を図る

市内3か所に設置した分館は、スペースの制約があるため蔵書は多くありませんが、本館や他の分館等で所蔵している図書館資料を受け取るサービスポイントの機能をはじめ、地域拠点としての重要な役割を果たしています。それぞれの地域の様子やニーズに合わせ、計画的に特集や展示などを行うことで、分館における図書館サービスの充実を図ります。

4. サービスを支える基盤を整備する

(1) 開かれた運営を行う

市民図書館は、インターネットや資料提供など、様々な手段を活用して事業やサービスに関する情報を積極的に公開し、市民が図書館の運営状態について、いつでも知ることができるような環境を整えます。

(2) 市民との協働による運営を行う

図書館の主役は、一人一人の利用者（市民）です。市民図書館が名実ともに「市民の図書館」であるためには、多くの市民と交流・対話し、日常的に市民ニーズや図書館運営に関する要望を受け止め、改善へのたゆまぬ努力を続ける必要があります。利用者をはじめ、図書館ボランティアや図書館を拠点に活動する団体等の声を聴き、共に考え、行動することで市民とともに成長する図書館を目指します。

(3) 継続的な職員の研修を行う

図書館職員の能力は、図書館サービスの質に大きな影響を及ぼします。市民図書館は、市民からの質問や読書相談に応え、子どもへの読み聞かせなどの充実を図るために、司書資格を持つ職員を配置すると同時に専門性や業務上必要な知識向上のために職員の研修に努め、サービスのさらなる向上を目指します。

(4) 施設の補修や機器の更新を適時に行う

利用者の快適な図書館利用には、施設・設備面でのきちんとした整備が欠かせません。市民図書館は、施設や機器の点検、補修または更新を適時行い、良好な施設環境の維持に努めます。

5. 利用者の期待に応える蔵書・情報源を構築する

(1) 魅力的な蔵書を構築する

利用者は、読みたい本、知りたい情報を求めて図書館にやってきました。市民図書館は、こうした期待に応えるために、利用者が必要とする本を着実に保存すると同時に、新たな本を毎年一定程度購入し、魅力的な蔵書・情報源を構築するよう努めます。

(2) 調べものに役立つ環境を整備する

情報が大きな力を持つ現代においては、調べものの支援は図書館の重要な役割です。市民図書館は、この役割を十分に果たすために、蔵書の充実を図ることに加え、インターネットを活用した調査研究環境を提供します。

(3) 地域行政資料を積極的に収集する

特に石狩に関する資料は、地域について知るうえでも、祖先の営みを知るうえでも、そして現在を生きる私たちの活動を子孫に伝えるうえでも、非常に重要なものです。市民図書館は、こうした地域行政資料を積極的に収集し、着実に保存することで、石狩の文化の共有を図ります。

第4章 石狩市民図書館が今後5年間に重点的に取り組む施策

1. 子どもの学びを支援する

■目的

子どもが本に親しむための機会の提供に努めるとともに、子どもにとって最も身近な図書館である学校図書館を支援します。

■成果指標

指標の名称	単位	令和元年度実績	令和6年度
全国学力・学習状況調査において、学校の授業以外で、普段（月～金曜日）、1日当たり「10分以上」読書（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）をしている小学校6年生と中学校3年生の割合	%	小6 57.3 中3 45.8	↑

■関連事業

施策・事業	事業の概要
ブックスタート*	10 か月児健診会場でブックスタートパック無料配布と、そのフォローアップとして、1歳6か月児健診会場における読み聞かせを実施
おはなし会	ボランティア等の協力を得ながら、おはなし会・ブックトークを実施
図書館利用ガイダンス	図書館の利用方法や調べ方についてのガイダンスを実施
学校独自の取組	学校図書館活用による朝読書など、学校ごとに特色ある読書習慣形成の取組を推進
【新】読書への関心・意欲を高める取組	本に出会う機会をつくりだし読書意欲を喚起するため、子ども読書会やおすすめ本紹介、ブックトーク等を実施
家読（うちどく）*	第2のブックスタート事業として、就学時健康診断会場で、ブックリストを渡すとともに、図書館利用や読書習慣の定着に向けた声かけを実施
調べる学習コンクール*	図書館や学校図書館の資料、市内の様々な資源などを活用し、児童自らがテーマを決め、調べ、まとめるコンクールを実施

施策・事業	事業の概要
子どもの自発的な活動の支援	関係機関などと連携し、研修機会や情報提供などのほか、子ども司書など子どもが自発的に本や読書に親しめるような事業を実施
学校図書館の蔵書の充実	学校図書標準を目安に各小中学校の実情に応じた蔵書の充実と廃棄を実施
学校図書館の体制整備	学校図書館等整備方針を基に司書配置やオンライン化等の体制整備を実施
学校司書の資質向上	研修により学校司書の専門性を伸ばすとともに、学校の教育活動と連携

*ブックスタート＝ボランティアや図書館司書、保健師などが、それぞれの立場から、赤ちゃんと絵本を囲んで気持ちを通わす時間の楽しさと大切さを保護者に伝えながら、絵本や読み聞かせのアドバイスなどが入ったブックスタートパックを無料で手渡すもの。全ての家庭において、本の読み聞かせを通じた親子のふれあいの時間をもつことができるよう支援することを目的としている。

*家読（うちどく）＝読書習慣の定着や家庭でのコミュニケーションを深めるために行う事業。

*図書館を使った調べる学習コンクール＝公益財団法人図書館振興財団が主催するコンクール。石狩市は、平成24年度から地方予選となる「石狩市コンクール」を実施している。

2. 資料提供や情報発信を通じて生涯学習を支援する

■目的

利用者が求める文献・情報を提供する機能のみならず、所蔵資料の活用、他機関との連携を通じた情報発信、また利用者間の交流や学習機会の創出により、生涯学習活動を支援します。

■関連事業

施策・事業	事業の概要
情報提供機能の強化	データベースを活用し、レファレンスサービス*の質を高めるとともに、相互貸借制度*や国会図書館のデジタル資料閲覧サービス等により、所蔵していない情報の提供機能を強化
友好図書館交流	宮城県名取市図書館、石川県輪島市立図書館、沖縄県恩納村文化情報センターと資料交換、相互貸借やボランティア交流等を実施

施策・事業	事業の概要
情報の発信	蔵書やインターネットの活用により、地域情報をはじめとする様々な情報を発信
【新】図書館活動PRのためのイベント等の充実	より多くの市民に気軽に図書館にきてもらうことができるようなイベントや取組を充実
【新】利用者同士の交流をうながす事業等の実施	読書会やビブリオバトルなど読書を通じて利用者同士が交流できる機会の創出
【新】学習会の開催	情報活用能力など時代の要請にこたえる学習会の開催

*レファレンスサービス＝利用者に対して図書館員が行なう人的な援助。主に、求めている文献そのものや、文献の探し方を提示することなど。

*相互貸借制度＝自館に無い資料を他自治体の図書館や機関の協力を得て取り寄せる制度。

3. 市民の誰もが利用できるような環境を整備する

■目的

様々な理由で市民図書館に来館することが困難な方へのサービスの充実を図り、誰もが図書館のサービスを受けられるように努めます。

■関連事業

施策・事業	事業の概要
来館が困難な方へのサービスの充実	宅配サービスや返却等のサービスポイントの設置、出張貸出等により、来館が困難な方へのサービスを実施
分館でのサービス活性化	地域の実情やニーズに合わせた蔵書構築や特集展示など分館サービスの活性化を推進

4. サービスを支える基盤を整備する

■目的

市民とともに成長する図書館を目指し、図書館運営に関する情報を積極的に公開するとともに、対話の場を増やし、市民との協働を進めます。

また、施設の補修や情報機器等の更新を適切に行うことで利用しやすい環境を提供するとともに、専門的職員の配置や職員の資質向上を図るなど、基本サービスの充実に不断に取り組めます。

■関連事業

施策・事業	事業の概要
運営状況の公表	ホームページや図書館だより、要覧など、様々な媒体を活用し、図書館の運営状況を積極的に公表
市民協働による事業展開	市民・ボランティア、市民活動団体との交流、また活動支援を実施するとともに、協働により市民とともに歩む図書館を目指した事業を展開
施設の補修・機器の更新	施設の補修・情報機器等の更新を適切に実施
職員の資質向上	職員の研修を継続的に行い、サービス・事業を質的に向上

5. 利用者の期待に応える蔵書・情報源を構築する

■目的

魅力的な蔵書を構築して利用者の多様なニーズに応えるとともに、インターネット環境の活用を通じて、調べものに役立つ環境を整えます。

■成果指標

指標の名称	単位	平成30年度 (実績)	令和6年度 (目標)
市民図書館(本館)の入館者数	人	236,080	↑
司書研修等を行った回数	回	8	↑
ボランティアなどによるイベントの開催数	回	72	↑

■関連事業

施策・事業	事業の概要
魅力的な蔵書・情報源の構築	毎年一定程度の新鮮な資料(雑誌・新聞を含む)を購入し、魅力的な蔵書を構築
寄贈図書を活用	寄贈図書やスポンサー雑誌等による蔵書の充実
地域行政資料の充実	特に石狩に関するあらゆる形態の資料収集を行うとともに、整備・活用を強化
インターネットによる調査研究環境の充実	利用者が持ち込んだコンピュータ等を活用し、インターネットで調査研究できる環境を整備